

令和6年度(2024年度)心理アセスメントコース



HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

【演習1】 田中ビネー知能検査V

令和7年(2025年)1月14日(火) 11:00~12:00

北海道立特別支援教育センター

研究員(視覚障がい教育室) 山田 剛 弥

研究員(知的障がい教育室) 小幡 史門

1

北海道立特別支援教育センターの山田です。
これから田中ビネー知能検査Vの演習を行います。どうぞよろしくお願いいたします。

目的

心理検査の実施方法について理解する。

この講義では、心理検査の実施方法について理解することを目的としております。実際に行う際のポイントを確認し、実際に体験していただきます。

1 【準備】検査に必要な10のアイテム

- ①検査用具
- ②マニュアル
- ③記録用紙
- ④テストペーパー（被検者用紙）
- ⑤所定用紙2種類（A5判，8cm×8cmの正方形）
- ⑥ストップウォッチ(音の出ないもの)
- ⑦筆記用具（テスター記録用紙の他に、B程度の柔らかい芯で消しゴムのついていない鉛筆数本、赤鉛筆）
- ⑧ものさし
- ⑨分度器
- ⑩ハンカチ(「発達チェック用」)

「田中ビネー知能検査V実施マニュアル」（田研出版）P13

はじめに検査に必要なアイテムです。

机上に配置する。

田中ビネー知能検査Vは検査用具が大変多いので、検査を始める際に慌てることがないように、事前によく点検し、準備しておいてください。

2 検査場面の調整

○ 検査時刻・時期

- ・十分に能力を発揮できる時刻を選ぶ。
- ・心身や情意に変動が起きやすいイベントの前後は避ける。

○ 検査場所

- ・静かで落ち着いた場所
- ・採光・照度・換気・室温など事前のチェックが大切である。

「田中ビネー知能検査V実施マニュアル」（田研出版）P 7～14

4

田中ビネー知能検査Vの実施方法について説明します。

検査場面の調整です。

検査の実施は、子どもの体調や気分の良いときを選ぶ必要があります。一般的には、十分な睡眠をとり、朝食を済ませ落ち着いたあとの午前中が望ましいです。午後になると遊びや勉強でエネルギーを使い果たしている可能性が高く、検査に立ち向かう気力が午前中よりも低下していると推察されます。また、心身や情意に変動が起きやすいイベントの前後は避けたほうが無難だと考えます。

検査を受けるということは自体が日常場面とは異なるものであるため、できるだけ日常とあまり変わらないように検査場面の環境を調整する必要があります。静かで落ち着いた場所であること、採光・照度・換気・室温など事前にチェックしておくことが大切です。

(実施マニュアルP 7～14)

3 座る位置



「田中ビネー知能検査V実施マニュアル」(田研出版) P 9

5

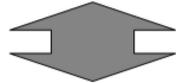
子どもと相談担当者の対座位置はこのようなパターンがあります。

対面の位置を基本とするのが一般的です。なぜなら正面に座ることで最も観察しやすい位置となります。しかし、真正面から向き合うと緊張してしまう子どももいるため、斜め向かいの位置をとる方が良いこともあります。

年少児(3歳以下)の場合などは、テストターと並んで座り、親密な雰囲気検査をしたほうが集中できる場合があります。

4 検査の実施にあたって

- マニュアルの手順どおりに検査を実施
(実施時間は、約1時間から1時間半)
- 子ども（被検査者）の反応を記録用紙に記入
- 検査と並行して正確に採点



そのため判定基準を十分に理解しておくことが大切

「田中ビネー知能検査Ⅴ実践マニュアル」(田研出版) P 30

「田中ビネー知能検査Ⅴ採点マニュアル」(田研出版) P 6

検査の実施にあたっては、マニュアルの手順通りに実施すること、子どもの反応を記録用紙に記入すること、検査と並行して正確に採点することが大切です。それらの検査を実施しながら行うためには、判定基準を十分に理解しておくことが大切です。

5 手順どおりに検査を実施するための注意事項

(1) 時間の測定

- ・ 制限時間
- ・ 提示時間
- ・ 検査時間 等

(2) 記憶問題は一字一句正確に

(3) 数詞の読み方

(4) 繰り返し

(5) 再質問

「田中ビネー知能検査Ⅴ実施マニュアル」（田研出版）P20～34

（実施マニュアルP20～34）

問題によって制限時間が設けられていたり、記憶に関連する問題では提示時間が規定されています。これらの時間はストップウォッチで正確に計時する必要があります。

制限時間とは、試行が許される最大の時間、タイムリミットのことです。制限時間が何分、何秒であるかは、通常は子ども（被検査者）には知らされない理由は、子どもが一定時間内に反応し終わらなくてはならないというプレッシャーから、慌ててしまったり、集中できなくなることを防ぐためです。しかし、13歳級以降では、「制限時間は3分です」など、最初にタイムリミットを提示する問題があるため、実施する場合は注意が必要です。

提示時間とは、記憶の問題に設けてあるもので、記憶に要する時間を一律にするために設けられた時間です。各問題によって異なるため、規定されたとおり正確にストップウォッチで計時する必要があります。

検査時間とは、定められた時間全てを使って、その課題に対処するために設けられたものです。例えば、「制限時間1分」は、1分以内であればどの時点でその問題を終了しても構いませんが、「検査時間1分」の場合は、子ども（被検査者）は必ず1分間、その問題の解決に当たらなくてはなりません。

文や話の記憶問題、数唱問題などでは、当然のことながら一字一句たりとも一切変更してはなりません。たとえ子どもにとって了解することが困難な内容であっても変更するのは間違いです。

数詞の読み方は、聞き間違いのないようにこのように決められています。子どもが4を「シ」、7を「シチ」というのは構いません。子どもによっては、教示が一度では耳に入らないために問い返したり、問題の意図が分かっていなかったりする様子が見られたときは、単にその教示をもう一度繰り返して伝えるようにします。ただし、2回までは繰り返しが許されてもそれ以上はしてはならないなど、各問題で定められた方法をよく承知しておくことが大切です。

子どもの解答を正答としてよいのか判断に迷うことがある場合、判定の手掛かりを得るため再度子ども（被検査者）に質問を行うシステムが設けられています。どのようなケースで再質問を行うかや、再質問の仕方もほぼ決められており、相談担当者は、「実施マニュアル」の「再質問」項目や「採点マニュアル」に記載されている再質問の熟知が必要です。

また、再質問は1回限りとされています。再質問後の解答が、また再質問に相当するような反応であった場合は、再び再質問することはせず、その解答は誤答とします。

【演習】検査の実際

それでは演習を行います。

演習の進め方①

- 1 【説明】 一つの年齢級の内容を確認
- 2 【視聴・説明】
動画を視聴、または説明を聞き実施方法を確認
- 3 【演習】 グループに分かれて、実際に検査を実施、交流
- 4 【説明】 合格基準、正答基準についての説明

演習の進め方を説明します。

※スライドを読み上げる。

演習の進め方②

- 隣の方と二人一組になります。
- 検査者となる順番を決めてください。
- 検査者役が被検査者役に検査を実施します。
- 問題ごとに役割を交代して実施してください。

演習の進め方を説明します。

※スライドを読み上げる。

(1) 下位検査内容（4歳級）

ア 下線の検査を動画で確認します。

4
歳
級

37 語彙（絵）★10、24、25

38 順序の記憶

39 理解（身体機能）

40 数概念（1対1の対応）

41 長方形の組み合わせ

42 反対類推（B）

まず、4歳級の問題です。

※スライドの順で紹介する。

下線部の検査について、動画を視聴していただきます。（2分）

★印は、再出現問題になります。最初にあたった問題のみを実施し、その跡の再出現問題は繰り返し実施することはしません。ただし、その都度正答数だけは記録用紙に記入し、合格基準に応じて各問題での合否の判定をしていきます。

(1) 下位検査の演習（4歳級）

イ 赤文字で書かれた内容について実施し、交流します。

4
歳
級

- 37 語彙（絵）★10、24、25
- 38 順序の記憶
- 39 理解（身体機能）
- 40 数概念（1対1の対応）
- 41 長方形の組み合わせ
- 42 反対類推（B）

それでは、4歳級の問題「38 順序の記憶」を実際に行なっていただきます。

手順は、マニュアルを確認しながら、実際に行い、その後グループで実施した感想等を交流していただきます。

4歳級のマニュアルを確認しながら、隣の方と二人一組になって検査を行ってください。

※マニュアルを基に説明します。

第38問 4歳級 順序の記憶

○ 注意事項→実施→合格及び正答基準説明

- ・ 注意事項（2分）
- ・ 実施（5分）
- ・ 合格及び正答基準（1分）

(2) 下位検査内容（5歳級）

ア 下線の検査を動画で確認します。

5
歳
級

- 43 数概念（10個まで）
- 44 絵の不合理的★49
- 45 三角形の模写
- 46 絵の欠所発見
- 47 模倣によるひもとおし
- 48 左右の弁別

続いて、5歳級の問題です。

※スライドの順で紹介します。

下線部の検査について、動画を視聴していただきます。（3分）

(2) 下位検査の演習（5歳級）

イ 赤文字で書かれた内容を実施し、交流します。

5
歳
級

- 43 数概念（10個まで）
- 44 絵の不合理的★49
- 45 三角形の模写
- 46 絵の欠所発見
- 47 模倣によるひもとおし
- 48 左右の弁別

それでは、5歳級の問題「45 三角形の模写」を実際に行なっていただきます。
手順は、マニュアルを確認し、実際に行い、グループで実施した感想等を交流していただきます。

5歳級のマニュアルを確認しながら、隣の方と二人一組になって検査を行ってください。

※マニュアルを基に説明します。

第45問 5歳級 三角形の模写

○ 注意事項→実施（模擬実施）→合格及び正答基準説明

- ・ 注意事項（2分）
- ・ 実施（5分）
- ・ 合格及び正答基準説明（1分）

(3) 下位検査内容（6歳級）

ア 下線の検査を動画で確認します。

6
歳
級

- 49 絵の不合理的★44
- 50 曜日
- 51 ひし形の模写
- 52 理解（問題場面への対応）
- 53 数の比較★58
- 54 打数数え

続いて、6歳級の問題です。

※スライドの順で紹介します。

下線部の検査について、動画を視聴していただきます。（3分）

(3) 下位検査の演習（6歳級）

イ 赤文字で書かれた内容を実施し、交流します。

6
歳
級

- 49 絵の不合理★44
- 50 曜日
- 51 ひし形の模写
- 52 理解（問題場面への対応）
- 53 数の比較★58
- 54 打数数え

それでは、6歳級の問題「53 数の比較」を実際に行なっていただきます。
手順は、マニュアルを確認し、実際に行い、グループで実施した感想等を交流していただきます。

6歳級のマニュアルを確認しながら、隣の方と二人一組になって検査を行ってください。

※マニュアルを基に説明します。

第53問 6歳級 数の比較

○ 注意事項→実施→合格及び正答基準説明

- ・ 注意事項（1分）
- ・ 実施（6分）
- ・ 合格及び正答基準説明（1分）

(1) 下位検査内容（10歳級）

ア 下線の検査について説明します。

10
歳
級

- 73 絵の解釈 (B)
- 74 話の記憶 (A)
- 75 ボールさがし
- 76 数的思考 (C)
- 77 文の完成
- 78 積み木の数 (A)

10歳級の問題から始めます。

※スライドの順で紹介をする。

10歳級の、話の記憶について演習を行います。

(1) 下位検査内容（10歳級）

イ 赤文字で書かれた内容を実施し、交流します。

10
歳
級

- 73 絵の解釈 (B)
- 74 話の記憶 (A)
- 75 ボールさがし
- 76 数的思考 (C)
- 77 文の完成
- 78 積み木の数 (A)

それでは、10歳級の問題「74 話の記憶 (A)」を実際に行なっていただきます。
手順は、マニュアルを確認し、実際に行い、グループで実施した感想等を交流していただきます。

10歳級のマニュアルを確認しながら、隣の方と二人一組になって検査を行ってください。

※マニュアルを基に説明します。

第73問 10歳級 絵の解釈

○ 注意事項→実施（模擬実施）→合格及び正答基準説明

- ・ 注意事項（1分）
- ・ 実施（5分）
- ・ 合格及び正答基準説明（1分）

(2) 下位検査内容（11歳級）

ア 下線の検査を動画で確認します。

11
歳
級

- 79 語の意味 ★85
- 80 形と位置の推理 ★90
- 81 話の記憶
- 82 数的思考
- 83 木偏・人偏のつく漢字
- 84 話の不合理的

11歳級の問題です。

※スライドの順で紹介する。

(2) 下位検査内容（11歳級）

イ 赤文字で書かれた内容を実施し、交流します。

11
歳
級

- 79 語の意味 ★85
- 80 形と位置の推理 ★90
- 81 話の記憶
- 82 数的思考
- 83 木偏・人偏のつく漢字
- 84 話の不合理的

それでは、11歳級の問題「84 話の不合理的」を実際に行なっていただきます。
手順は、マニュアルを確認し、実際に行い、グループで実施した感想等を交流していただきます。

集合の方は、11歳級のマニュアルを確認しながら、隣の方と二人一組になって検査を行ってください。

※マニュアルを基に説明します。

84 話の不合理的です

○ 注意事項→実施（模擬実施）→合格及び正答基準説明

注意事項→実施→合格及び正答基準説明

- ・ 注意事項（1分）
- ・ 実施（8分）
- ・ 合格及び正答基準説明（1分）

4 まとめ

21

最後に、まとめを行います。

方法について

- 1 正規の手続きに従う
- 2 記憶問題は一字一句正確に
- 3 繰り返し

22

方法についてのまとめです。

一つ目は、正規の手続きに従うことです。個別式知能検査は一種の統制された観察法であり、標準化時と同じ条件で子ども(被検査者)を観察することで正確なアセスメントを行うものです。したがって、マニュアルに書かれている方法は厳守されなければなりません。検査手順や教示の一部が省されたり、逆に余分な説明を加えるなどは、あってはならないことです。

二つ目は、記憶問題は一字一句正確にすることです。文や話の記憶問題、数唱問題などでは、当然のことながら一字一句たりとも一切変更してはなりません。これらは材料にあたるもので、たとえ子どもにとって了解するのが困難な内容であっても変更してはいけません。

三つ目は、繰り返しです。子どもによっては、教示が一度では耳に入らないために問い返したり、問題の意図がわかっていない様子のある場合があります。そのような場合は、単にその教示をもう一度繰り返して与えるようにします。ただし、話の不合理的問題にみられるように、2回までは繰り返しが許されてもそれ以上はしてはならないなど、各問題で定められた方法をよく承知しておくことが大切です。また、記憶問題は繰り返すことが許されないのので、子どもが集中できるような環境を作ってから問題を与えるなどの配慮が必要です。

これで、演習を終わります。